

「聖年のみことば」 担当 助任司祭 柴田潔

聖年は、現在は **25 年ごとに行われるようになった**（通常聖年）。また、教皇がとくに定める**特別聖年**があります。

今日は、まず 2000 年のミレニウム時の話。次に、今年の 2025 年の聖年について、そして次の聖年 2050 年に向けてのお話をします。

「聖年のみことば」として選んだのは **I テサロニケ 5 章 17 節の「絶えず祈りなさい。」**

9 月の終わり

静岡県裾野市でシスター方の黙想同伴をしていました。（その時の聖心会のシスター方の元気なお姿です。中には私の年齢近く修道生活を歩まれた方もおられます）

今から 25 年前、2000 年まで静岡支店に勤務していました。静岡県は、イエズス会に入る前、住宅会社の営業の最後を過ごした場所（名古屋支店に 10 年、静岡支店に 2 年勤務）で、裾野にも家を建ててくださったお客様がおられます。

静岡支店に赴任して数ヶ月、業績が上がらなくて落ち込んでいました。「自分は、役立たない。どこにも自分の居場所がない。いっそどこかへ消えてしまいたい」と思っていました。

そんな気持ちで、ある日、車の中で信号待ちをしていました。すると、車のガラスをコンコンと叩く音が聞こえました。「何だろう？」とパワーウインドをおろすと、ご婦人は「駅に行くにはどうしたらいいのでしょうか？」と道を尋ねてきました。

「自分は何の役にも立たない」と思っていたので、うれしくなって丁寧に道案内しました。久しぶりに心と心が触れあえたような、人間らしさを取り戻したような感じがしました。

そのことがあって以来、落ち込んだり、孤独を感じると車のガラスを“コンコン”叩いて気を紛らすようになりました。ちょっと暗いですね・・・。

日本のサラリーマンは、5000 万人以上。中には、自分と同じように、孤独、不安を感じながら仕事をしているはず。その人たちを助けたい、疲れている人を休ませたい、という望みを持つようになりました。

その小さな望みに、人生を賭けよう。小さな望みをきっかけに、会社を辞めてイエズス会入会を志願しました。

イエズス会入会志願書 1999 年 10 月

秋の深まりとともに、こちら（富士市）では晴れた日に富士山がとても良く見えます。私の召し出しについても、だんだんと明確になってきました。大学を卒業してから社会人の 12 年間（1988 年～1999 年）2つの祈りを大切に唱え続けてきました。1つは、イグナチオ教会の大学生を対象とした木曜会（1985～87 年：指導司祭は、桜井神父・松本神父）で唱えた、アシジのフランシスコの平和を唱える祈り。もう一つは、南山教会のレジオ・マリエで唱えたマリアの祈り（私は主のはしため、お言葉通りになりますように）。今思うと、2つの祈りが私の人生の中に静かにゆっくりと実現されて来たように思います。

入会の許可が降りてイエズス会に入会したのが 2000 年のミレミムの年でした。

それから 10 年経ち、司祭に叙階され、15 年経ち、2025 年（聖年の年）になりました。

聖年の今年、教会の仕事、カトリック学校のお手伝い、修道会からのお仕事・・・巡礼には出かけられていません。

そこで『無名の順礼者 あるロシア人順礼者の手記』 [概要欄に資料](#)

(斎田靖子, P.A.ローテル 訳 エンデルレ書店) を読みながらの“祈りの巡礼”のお話をしたいと思います。

今していることに集中することに関しては [マインドフルネスについての資料は 概要欄に](#)

『マインドフルネスとキリスト教の霊性 神のためにスペースを作る』

ティム・ステッド 柳田敏洋・伊藤由里訳 教文館 2019 年

『神を追い越さない』キリスト教的ヴィパッサナー瞑想のすすめ 柳田敏洋著 2021 年

意識が上ると「絶えず祈りなさい」 吐く息「主よ」吸う息「憐れみたまえ」

吐く息「キリスト」吐く息「あわれみたまえ」

生活の中で「イエスのみ名を唱える祈り」を取り入れる。通勤、家事、仕事の合間、食事、ジョギング中、ベッドの中で・・・他に思いつく時間で。

これまでなんの気無しに過ごす時間に 「主よ、憐れみたまえ」「キリスト、憐れみたまえ」

自動的 バックグラウンドミュージックのよう 祈りが回りだす。

「イエスのみ名を唱える」を習得するための工夫は[概要欄に](#) (私の修士論文から)

「イエスのみ名を唱える祈り」の効果は？

どのような変化が？

以前はいつも慌てていた、やることで頭が埋め尽くされている。確実にしようとするために、気持ちが固くなる。

→「イエスのみ名を唱える祈り」を唱えていると「神様は共にいてくださる」 忙しくても慌てない。

→徹底的に準備しなくても、スケジュールがハードでも「なんとかなる」と思えるようになる。実際にそうなる。

→「呼吸の中に神様がいてくださる」感覚になる。

→「静かな祈りの時に入りやすくなる」

2050 年に向けて 「絶えず祈りなさい」 巡礼の旅を続ける。

これからも深められるように。「イエスのみ名を唱える祈り」が消えないように、していきたい。

まとめ

次の聖年に向けて。 25 年後、元気で働けているように。

「絶えず祈りなさい」とは別に人生の最後にイエス様から掛けていただきたい言葉。

「あなたがたは、わたしが種々の試練にあったとき、絶えずわたしと一緒に踏みとどまってくれた」

(ルカ 22:28)

これからの 25 年にも様々な出来事があるでしょうけれど・・・イエス様からの労い、お褒めの言葉が聞けたらいい。

2025 年 9 月 ある方の塗油に伺いました。98 歳の方で、北海道の地域医療のために長年尽くされた方。ご聖体もできたらいいと思いましたが、誤嚥の可能性があるので、御血を用意しました。

そして御血の拝領、お口の中に御血を注ぐ。すると「もっと」と言う表情をされた。「もっと！」

その場におられた娘さん、息子さんの表情が和らいだ。

人生の終わりに御血の恵み・神様からの恵みを「もっと」いただきたい。私もそんな人生の終わりを迎えたい、そんな巡礼の旅、天の国に向かう巡礼をしていきたい

「絶えず祈りなさい」を実践して、人生の最後「種々の試練にあったとき、絶えずわたしと一緒に踏みとどまってくれた」(ルカ 22:28)と言う、お言葉を聞きたい。

その日が来るように、ご一緒に、巡礼の旅を歩んでまいりましょう。